



道標

札幌市立陵北中学校 進路通信 No.9

発行者：教務部進路指導係

発行日：令和8年6月15日（月）

☆ 「進路のしおり」について・1

『進路のしおり』（札幌市中学校進路指導協議会 編集）を配付しました。

この冊子には、札幌近郊の高等学校（公立・私立）、高等専門学校、特別支援学校、専修学校、職業訓練施設など、進路に関する情報がまとめられています。

進路を考えるうえでの大切な資料ですので、生徒の皆さんはもちろん、保護者の方にもぜひご一読いただき、ご家庭で進路について話し合う際にご活用ください。

また、巻末には学校の配置図が掲載されています。志望校の場所や通学距離を確認する際にも役立ててください。

○まず最初に見てほしいページ

・P1：進路を考えるうえでのアドバイス ・P4：しおりの読み方

まずはこの2ページに目を通し、「進路を考えるとはどういうことか」を確認しておきましょう。

○進学を希望する人に（P6～P8）

高校は「勉強する場」です。授業は毎日6時間（学校によっては7時間）あり、普通科以外では専門的な学習も行います。

進学を考える際には、次のような点が大切になります。

- ・何を学びたいのか ・その学校で自分の力を伸ばせるかをしっかり考え、
- ・学習内容 ・将来の進路とのつながり ・通学時間や費用 ・学校の雰囲気を知ることが大切です。

そして何より大切なのは、

「自分の意思と責任で決めること」です。

周囲のアドバイスを参考にしながら、最後は自分で決めるという意識を持ちましょう。

進路は、周りに言われて決めるものではなく、自分で考えて選んでいくものです。

そのためには、情報を集め、自分なりに考えることが大切になります。

すぐに答えが出なくても構いません。少しずつで大丈夫です。

ご家庭でも話をする機会を大切にしながら、納得できる進路を見つけていきましょう。





道標

札幌市立陵北中学校 進路通信 No.10

発行者：教務部進路指導係

発行日：令和8年6月16日（火）

☆ 「進路のしおり」について・2

○公立高校の特色（P9～P20）

公立高校には、全日制・定時制・通信制などさまざまな課程があります。また、普通科だけでなく、総合学科、理数科、外国語学科、工業科、商業科、農業科、水産科、工芸科、体育科、看護科など、多様な学科が設置されています。それぞれ学習内容や取得できる資格、卒業後の進路が異なるため、自分の興味や将来の目標に合った学校・学科を選ぶことが大切です。

特に専門学科は、将来の職業や進学先と深く関わる学習を行うため、パンフレットやホームページだけで判断せず、学校説明会や体験入学などに参加し、実際の雰囲気や学習内容を確認することをおすすめします。

また、P22には高等専門学校（高専）についても紹介されています。高専は5年間で専門的な技術や知識を学ぶことができる学校です。高校とは異なる特色をもっていますので、進路の選択肢の一つとしてぜひ目を通してみてください。

※単位制について

単位制では、自分で科目を選択して学習します。しかし、進路をよく考えずに選択すると、後から必要な科目が履修できないこともあります。選択の際は慎重に考えましょう。

○奨学金制度について（P34～P36）

奨学金は、進学する意欲がありながら、経済的な理由で学費の負担が大きい生徒を支援するための制度です。返済が必要な「貸与型」と、返済の必要がない「給付型」があり、募集条件や支給金額、返済方法などは制度によって異なります。

また、学力や家庭の状況など、一定の条件が設けられている場合もあります。進学後の学費や生活費に関わる大切な制度ですので、進学を考えているご家庭はぜひ一度目を通してみてください。

なお、募集案内が届いたものについては、9月以降の進路だよりでも随時お知らせしていく予定です。必要に応じてご活用ください。

○これから意識してほしいこと

・情報は自分から集める ・説明会には積極的に参加する ・進路は少しずつ考えていく
進路は一度で決まるものではありません。

情報収集と振り返りを繰り返しながら、自分に合った道を見つけていきましょう。

『進路のしおり』の内容には、入試制度や出願方法など、重要な情報も多く掲載されています。すべてを一度で理解する必要はありませんが、少しずつ目を通しておくことが大切です。

進路は、早く決めることが大切なのではなく、納得して選ぶことが大切です。

そのために、まずは一つでも行動してみましょう。説明会に参加する、しおりを少し読む、それだけでも十分な一歩です。

小さな積み重ねが、進路を具体的なものにしていきます。焦らず、一つずつ取り組んでいきましょう。



☆ 「進路のしおり」について・3

○道立高等学校の入学選抜について（P37～P45）

このページには、通学区域や出願できる学科、出願変更、一般選抜・推薦選抜（自己推薦）、再出願、合格発表、第2次募集など、公立高校受検に関わる大切な制度が掲載されています。

入試は単に「試験を受ける」だけではなく、出願から合格発表まで様々な制度や手続きがあります。自分の進路を考えるうえで、「出願変更とは何か」「自己推薦とはどのような制度なのか」「第2次募集とはどのような場合に行われるのか」などを知っておくことはとても大切です。

9月以降、進路だよりや進路学習でも詳しく説明していきますが、自分の将来に関わる大切な内容ですので、「先生が教えてくれるから大丈夫」ではなく、自分自身でもしおりに目を通し、理解しようとする姿勢を大切にしてください。

すべてを今すぐ理解する必要はありませんが、「こんな制度があるんだな」と知っておくだけでも、進路を考える際の大きな助けになります。分からないことや気になることがあれば、そのままにせず、担任や進路担当の先生に遠慮なく相談してください。

○公立高校願書について ～Web 出願～（P46～P50）

北海道の公立高校では、出願手続きがすべて Web 出願となっています。P46～P50 には、出願の流れや入力事項について詳しく説明されています。

出願時には、氏名・住所・郵便番号など約 30 項目を入力する必要があります。これらは公立高校だけでなく市立高校や私立高校の出願でも必要になることが多いため、今のうちから確認しておくとう安心です。

また、住所は住民票などに記載されている正式な表記で入力する必要があります。ハイフン（-）は基本使用できません。氏名についても、戸籍上の正式な文字で入力する必要があります。特に外字（「高」など）を使用している人は、事前に確認しておきましょう。

さらに、本年度から進路写真は学校で一斉撮影を行わず、各自で準備していただくことになりました。高校によっては写真データを Web 上でアップロードして提出する場合があります。募集要項をよく確認し、必要な時期に適切な写真を準備してください。

なお、Web 出願の具体的な操作方法については、11 月頃にマニュアルを配付し、改めて説明する予定です。

○面接について（P53～P56）

面接は、学力試験だけでは分からない皆さんの人柄や考え方、志望校への思いなどを高校の先生に伝える大切な機会です。特に自己推薦入試や私立高校の単願入試などでは、多くの学校で面接が実施されています。

面接では、志望理由や高校で頑張りたいことはもちろん、言葉遣いや身だしなみ、受け答えの様子なども見られます。「なぜその高校を志望したのか」「高校卒業後はどのような進路を考えているのか」など、自分の考えを自分の言葉で伝えられるようにしておくことが大切です。

P55～P56には、面接でよく聞かれる質問例が掲載されています。面接の有無にかかわらず、一度は目を通し、自分ならどのように答えるか考えてみることをおすすめします。進路について考える良いきっかけにもなります。

なお、本校では2学期以降、随時面接練習を実施します。今年度は、生徒自身が希望する先生に依頼し、練習を行う形を予定しています。面接は練習した分だけ上達します。受験本番で自信をもって話せるよう、積極的に活用してください。



☆ 「進路のしおり」について・4

○『進路のしおり』の見方（高校について 続き）

P57からは、公立高校ごとの特色や課外活動、卒業後の進路、通学手段などが紹介されています。興味のある学校を読み比べてみましょう。各校のホームページも掲載されていますので、あわせて確認してみてください。

○さまざまな進学先について

- ・P160～：高等専門学校（高専） 5年間で専門技術者を育成する学校です。（道内に4校）
- ・P169～：特別支援学校 出願資格が複雑なため、早めに担任へ相談してください。

○私立高校について（P201～）

私立高校は、A日程・B日程に分かれており、それぞれ1校ずつ、最大2校まで受験できます。

【重要】私立高校について

北海道では公立志向が強く、私立高校については十分に調べないまま受験するケースも見られます。しかし、私立高校はそれぞれに特色があり、近年は第1志望として進学する生徒も増えています。また、進路日程の関係で、私立高校の検討が先に必要になることが多いです。より良い進路選択のためにも、私立高校についてもしっかり調べ、説明会等に参加しましょう。

○私立高校の情報収集

冊子に掲載されているのは主に道央圏の学校です。

それ以外の学校については、「北海道私立中学高等学校協会」のホームページで確認できます。各校のホームページや学費、支援制度なども確認できますので、積極的に活用してください。

○通信制高校について（P258～）

近年、通信制高校を希望する生徒が増えています。各校ごとに特色が大きく異なり、入試日程もそれぞれ異なります。中には、定員に達すると募集が終了する学校もあります。希望する場合は、早めに情報収集・検討を進めましょう。※冊子に掲載されていない学校もあるため、インターネットでの確認も大切です。

○その他の進路（P267～）

職業訓練施設や専修学校についても紹介されています。将来の職業が明確な人にとっては、有効な選択肢となります。

○一覧表の活用（P277～）

各学校の所在地や学科、募集定員などが一覧で確認できます。進路希望調査などで正式名称を書く際の参考にもなります。

○最後に

『進路のしおり』は、一度読んで終わりではなく、必要に応じて何度も見返すことが大切です。手元に置いて、進路を考える際にぜひ活用してください。